

式は算数語の物語

日本語の物語（問題）

500円玉をもって買い物に行きました。180円のお菓子和230円のバナナを買いました。お金は、あといくら残っているでしょう。

これを算数語（式）に直すと

$$500 - 180 = 320 \quad 320 - 230 = 90 \quad \text{こたえ } \underline{90 \text{ 円}}$$

$$500 - 180 - 230 = 90 \quad \text{こたえ } \underline{90 \text{ 円}}$$

$$500 - (180 + 230) = 90 \quad \text{こたえ } \underline{90 \text{ 円}}$$

これを日本語に直すと（式の意味を考えると）

500円玉をもって買い物に行きました。お菓子屋さんで180円のお菓子を買いました。そして、果物屋さんに行って230円のバナナを買いました。いま、おかねは、90円残っています。

500円玉をもってスーパーに買い物に行きました。180円のお菓子を持ってレジに並びました。そのとき、お母さんから頼まれたバナナを買うのを忘れていて、あわてて、230円のバナナを持ってきてレジの店員さんの渡しました。いま、おかねは、90円残っています。

500円玉をもってスーパーに買い物に行きました。180円のお菓子と230円のバナナを持ってレジに並び、お金を払いました。いま、おかねは、90円残っています。

また、100円玉5枚の場合だと、もっと式が変わってきます。

$$200 - 180 = 20 \quad 300 - 230 = 70 \quad 20 + 70 = 90 \quad \text{こたえ } \underline{90 \text{ 円}}$$

こんな式も成り立ちます。実際の生活に即した式になっています。

算数においては、「式を読み取る」事も大切な学習の一つです。式によって情景や場面設定は、変わってきます。先生も子どもたちが立てた式を簡単に判定するのではなく、子どもたちの立てた「式を読み取る」ことも大切です。

式のない計算は、
算数の半分にも満たない。